

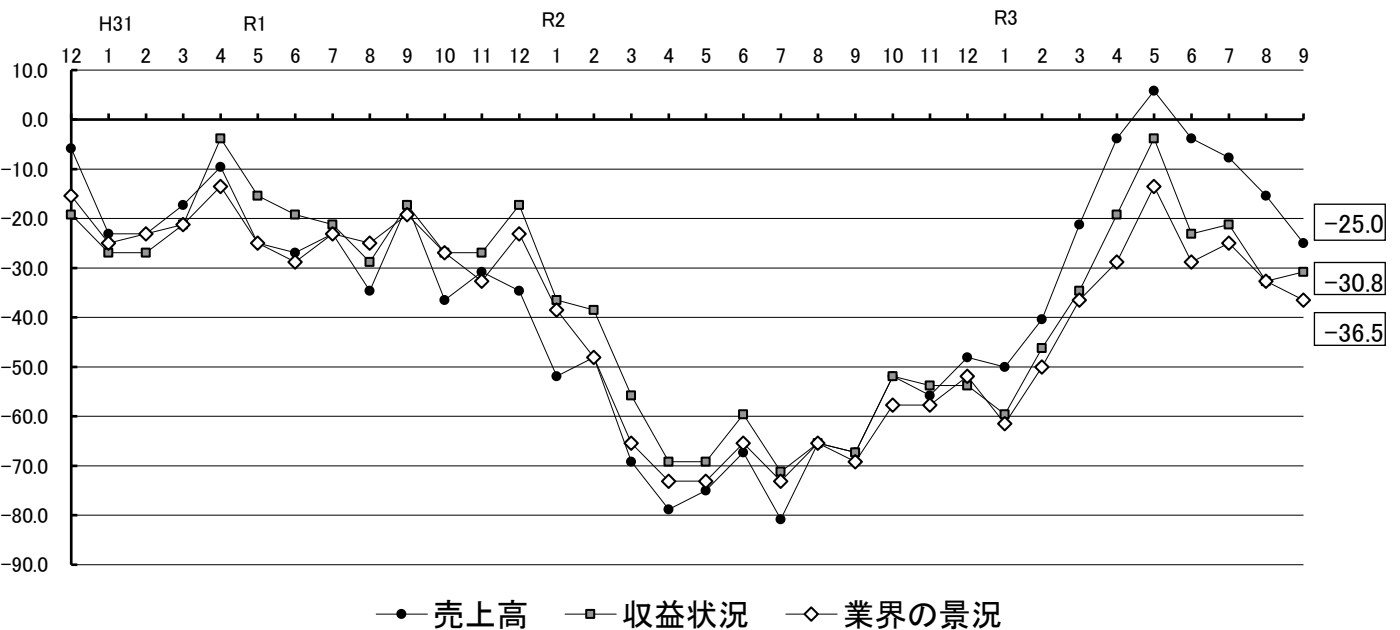
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和3年9月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標「売上高」「業界の景況」は下降。「収益状況」はわずかに上昇した。
- 製造業で「食料品製造」「鉄鋼・金属」、非製造業で「小売業(飲食業)」「サービス業」で特に厳しい状況。
- 新型コロナウイルスの収束は依然として見通せず、引き続き予断を許さない状況が続いている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-25.0	-9.6	-21.7	+1.7
収益状況	-30.8	+1.9	-33.5	+0.4
業界の景況	-36.5	-3.8	-33.2	+2.1

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より9.6ポイント下降し、-25.0ポイントとなった。全国においては、前月より1.7ポイント上昇し、-21.7ポイントとなった。

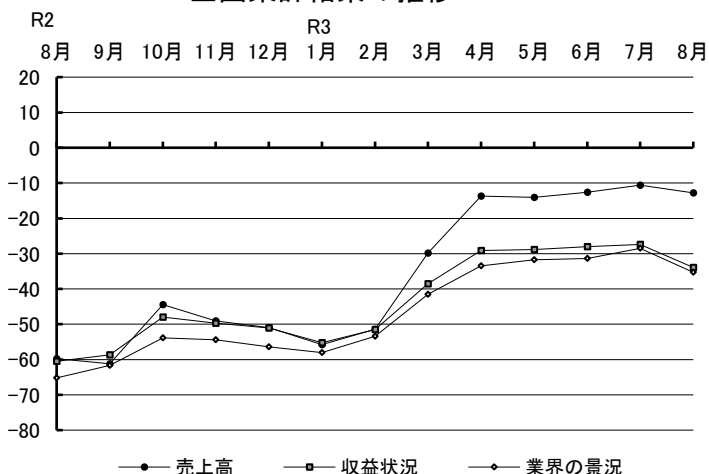
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より1.9ポイント上昇し、-30.8ポイントとなった。全国においては、前月より0.4ポイント上昇し、-33.5ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より3.8ポイント下降し、-36.5ポイントとなった。全国においては、前月より2.1ポイント上昇し、-33.2ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概 況-

9月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中4指標が低下した。主要3指標は「売上高」が9.6ポイント下降、「収益状況」が1.9ポイント上昇、「業界の景況」が3.8ポイント下降となった。原材料の高騰・部品の調達不安等の声（特に木材・木製品業）が依然として寄せられている。

業種別・指標別にみると、製造業全体では「食料品製造」・「鉄鋼・金属」で「売上」が-75.0ポイントで前月よりも下降し厳しい。特に、「木材・木製品」ではウッドショックが長期化し価格の高騰が止まらず、「鉄鋼・金属」では、半導体不足で製品が納品出来ない状態が続いている。一部には、新たなサプライチェーンの構築などを検討すべきなどの声も出てきている。非製造業においては、特に「小売業(飲食業)」「サービス業」「運輸業」等では依然としてマイナス状態が続いている。

当月は、前月と変わらず厳しい状態となった。各業界からは、取引先からの受注数大幅減少、原材料の仕入れが困難など、厳しい報告が続いている。感染者は徐々に減少が見られるものの、本県の緊急事態宣言が9月末までとなったことにより、改善の動きはあまり見られなかった。また、新型コロナウイルスの収束も見通せず引き続き予断を許さない状況が続いている。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-75.0	50.0	0.0	-25.0	-50.0	-50.0	-50.0	0.0	-50.0
繊維・同製品	-25.0	-50.0	-25.0	-50.0	-50.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0
木材・木製品	0.0	-100.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	-50.0
印刷	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	-100.0
窯業・土石	25.0	-25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0
鉄鋼・金属	-75.0	-25.0	0.0	0.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-75.0
一般機器	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	75.0	25.0	50.0
製造業	-4.0	-24.0	4.0	-12.0	-12.0	-12.0	0.0	-8.0	-32.0
卸売業	0.0	-33.3	0.0	0.0	0.0	-33.3		0.0	0.0
小売業	-85.7	-28.6	-14.3	-42.9	-71.4	-42.9		0.0	-42.9
サービス業	-50.0		-33.3	-50.0	-66.7	-66.7		-16.7	-66.7
建設業	-20.0		0.0	0.0	-20.0	0.0		0.0	-20.0
運輸業	-75.0		0.0	0.0	-75.0	-25.0		0.0	-75.0
その他	50.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-44.4	-30.0	-11.1	-22.2	-48.1	-33.3		-3.7	-40.7
全体	-25.0	-25.7	-3.8	-17.3	-30.8	-23.1	0.0	-5.8	-36.5

図表2 【指標別DI値の推移】

	2年				3年								前月比	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		9月
売上高	-67.3	-51.9	-55.8	-48.1	-50.0	-40.4	-21.2	-3.8	5.8	-3.8	-7.7	-15.4	-25.0	-9.6
在庫数量	-20.0	-22.9	-22.9	-25.7	-14.3	-8.6	-11.4	-20.0	-17.1	-14.3	-20.0	-17.1	-25.7	-8.6
販売価格	-5.8	-7.7	-11.5	-7.7	-13.5	-9.6	-3.8	-3.8	3.8	-5.8	3.8	0.0	-3.8	-3.8
取引条件	-23.1	-21.2	-19.2	-19.2	-15.4	-17.3	-11.5	-9.6	-9.6	-15.4	-11.5	-13.5	-17.3	-3.8
収益状況	-67.3	-51.9	-53.8	-53.8	-59.6	-46.2	-34.6	-19.2	-3.8	-23.1	-21.2	-32.7	-30.8	1.9
資金繰り	-42.3	-28.8	-26.9	-26.9	-26.9	-26.9	-19.2	-9.6	-13.5	-21.2	-15.4	-23.1	-23.1	0.0
設備操業度	-52.0	-40.0	-48.0	-32.0	-36.0	-24.0	-20.0	-12.0	12.0	0	4	0.0	0.0	0.0
雇用人員	-15.4	-9.6	-11.5	-11.5	-13.5	-11.5	-9.6	-11.5	-11.5	-11.5	-5.8	-7.7	-5.8	1.9
業界の景況	-69.2	-57.7	-57.7	-51.9	-61.5	-50.0	-36.5	-28.8	-13.5	-28.8	-25.0	-32.7	-36.5	-3.8

特記事項

情報連絡員報告（令和3年9月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	緊急事態宣言下で売上が厳しい。今後、ウィズコロナの経済的対応に期待したい。
繊維工業	縫製業	9月は少ない中で何とか維持しているが10月生産予定分を前倒して生産しており、10月11月の状況が悪化すると懸念している。
	網・レース・繊維粗製品製造業	ワクチン接種が進み、緩やかではあるが、コロナ禍前の経済活動に少しずつ戻り始めている。業界内では来春に向けてどれだけ受注が伸びるか意見が分れるが、昨年よりは伸びるとの見方。海外（特に中国、北米）はアパレルの活動が伸びてきていると実感できるが、欧州は少し停滞気味と感じる。
木材・木製品	一般製材業	ウッドショック問題につき、年明け以降も解消されないのではないかと警戒感が高まってきた。新たなサプライチェーンの構築などを検討すべき時期に来ていると感じている。
	家具・建具製造業	ウッドショックの影響が継続しており、木材以外の資材も不足、価格高騰している。
印刷	印刷業	相変わらずコロナの自粛で需要減に苦しんでいる。多少の増減はあるが全体的に悪化している。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼関係は、8月同様順調に推移している。 肥料関係は、8月の減少が9月に時期ズレによる出荷増となった。 建材土質関係は、伸び悩み状態が続いている。 全体では、若干の増加となった。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車・家電業ともに、東南アジアで製造している半導体が含まれた部品等の仕入れが困難な状態である。
	金属製品製造業	自動車部品、機械設備、プレス金属関連ともに業況は低下している。主な原因は、コロナ禍による売上低下、人件費増加、人出不足。
一般機器	一般機械器具製造業	令和3年9月の報告は前年同月と比較し、全般的に売上高並びに操業度上昇企業が増えてきている。それに伴い人出不足となる企業が出ているが、企業間格差があるものの良い傾向である。引き続き、仕入れ素材等の高騰が続いているが、今後の動向に注視していく。
	一般機械器具製造業	半導体・ワイヤーハーネス不足による停滞感が出てきてしまい活気がなくなりつつある。
卸売業	各種商品卸売業	当団地組合では、引き続き新型コロナウイルスの影響を受けているが、全体として売上高、収益状況、業況等は前年同期に比べ改善の傾向にある。
小売業	中古自動車小売業	新車が納車できない。（半導体不足）下取りも少なく、小売付き卸価格が上昇。特に未使用車等後年式車は異常に上がっている。収益圧迫。販売台数も減少。
	各種商品小売業	まん延防止等重点措置そして緊急事態宣言等により、人流が減り飲食店及び一般小売（物販）には厳しい9月期だった。飲食店は、物販共に70～80%売上減になっていた。
	花・植木小売業	開花のズレなどで全般的に入荷量が少なめのところに、お彼岸と敬老の日の3連休で積極的な買いが入り、商品によっては昨年比2～3割程度の単価高となった。お彼岸後も菊類を中心に引き合いが強く、また端境期に入った商品は品薄高値状態が続いた。

サービス業	理容業	新型コロナウイルスの影響を受け、理容業界全体的に客足が遠のいている。後継者のいない高齢組合員は、廃業を考える方も増えている。シルバーウィーク中は好天に恵まれ小売りの売れ行きは好調であった。
	旅館・ホテル	緊急事態宣言の影響もあり、市内全域のホテルの稼働率は平均 30%にも届かない状況である。また、第 5 波が想定以上に大きくさらに先が見えなくなった。(宴会) 新型コロナウイルス感染拡大により 100%ダウン。(飲食店) 休業か、時短営業になりどうにもならない。
サービス業	給食センター	売上高は、新型コロナウイルスの影響もあるが、新規事業である惣菜の製造販売により前年同月より増加傾向にある。しかし、このまま新型コロナウイルスが終息しない場合は、収益・資金とも悪化していくと思われる。
建設業	職別工事業	今期も半年が経過しようとしているが、業績においては各組合員とも前年と同様な状況であり、急激な落ち込みは見られない。下期については対前期微増の業績が期待できる。
運輸業	貨物軽自動車運送業	外食産業不振のおおりに受け、年間 300 日近く配送していた定期案件が終了した。携わっていた組合員に新しい仕事をまわしたくても、厳しい状況。日本経済の回復まで、組合員の生活が守られるよう、もうひと踏ん張り。
その他の非製造業	大谷石採石業	大谷地域内に、新たな集客施設がオープンしたことから、波及効果として周辺店舗にもお客様が流れるようになった。